

# あつみ観光新聞 6

温海川は休むことなく、たくさんのおみを与えながら、開湯千年の時と共に流れ続けて来た。人々が湯を知り、湯村に生き延びる姿を温海岳が見守り続ける。明治昭和の大火から奇跡的な復興を遂げた温海温泉が、今、人々の手により二度生まれ落ちよと蠢いている。リーダーが目指す道程は「西の山布院、東の温海」。今回の対談は温海のまちづくりアドバイザー東京大学教授・堀繁さんと温海町商工会事務局長・五十嵐正直さんです。



2006年10月1日号

発行 あつみ観光協会

〒999-7204

山形県鶴岡市湯温海甲306番地

TEL 0235-43-3547

URL <http://www.atsumi-spa.or.jp/>

発行人 本間 儀左衛門

# 足湯から温める本物の思い あんべ湯対談 その6

とき 平成18年6月10日(土曜日)

ところ あつみ温泉 萬国屋

堀教授が、温海温泉に関わったきっかけは何でしょうか？

堀教授 懇意にしていた庄内総合支庁の方から相談を受けたことです。「温海が変なことをしそうなので、一度見に行つてアドバイスしてくれませんか。」と。図面を見たら、今のあんべ湯の通りの両側の歩道に石を敷いてモニュメントとかファニチャーなど高価な像をたくさん置く案だったんです。お金の使い方を知らないなあと思いました。講演をして、観光地整備の要点を説明し、設計をやり直してあんべ湯を造りました。

足湯に、なぜ、屋根をつけないのでしょうか？

堀教授 店のディスプレイを考えてみて下さい。売りたい商品にはスポットを当てますね。暗くなつて見映えない商品は売れないものです。屋根付の足湯と屋根のないあつみの足湯を見比べたら一目瞭然、明るくよく見える温海の足湯は見映えがします。

なぜ他では屋根をかけるかと言うと、雨が降つても入れるようにするためですが、それは正しいでしょうか。観光地で大事なことは、「お客さまに満足を与えること」です。満足提供で一〇〇点が持点として、雨の日は持点が五〇に下がります。そうすると雨の日の足湯では満点でも五〇点しか取れない。一方屋根によって曇りや晴れの日も満点が五〇点に下がってしまいますから、一〇〇点が取れない状況になります。観光地が目指すべきは一〇〇点です。一〇〇点の観光地ならみんな行ききたがる。五〇点では行かない。雨が降つていたら「雨で残念でしたね。晴れたらすごく楽しいですよ。また、もう一度来て下さいね」でいいのです。つまり、他では足湯が目的であるのに対し、私にとって足湯は目的ではなく、よい温泉地に見せるための手段なのです。

五十嵐 なるほど！

なぜ、足湯なのでしょうか？

堀教授 私たちが観光地に行つた時に楽しいなあと思うのは楽しそうにしている人を見るときじゃないですか。足湯は人前に入れるお風呂ですから、観光客からよく見えます。旅館のお風呂は街を歩く人には見えない。温泉を楽しんでいる人たちが温泉街の商品で、足湯を楽しんでいる人が見える。だから、足湯が非常に重要です。温海温泉で人が楽しそうにしている所は「あんべ湯」「もつけ湯」「もっしえ湯」の他にありません。他に温海の売りがあれば足湯だけで組み立てませんが、現状の温海にはそれがあから行つてみようという強烈なものが他にないのです。

やすらぎの川事業を手がけた堀先生のメッセージは何でしょうか？

堀教授 無いものを作るのではなく、もともと地域にあるものを丁寧に輝かせていくことが大事というメッセージです。温海にとつて温海川は宝ですが、桜並木と転落防止柵とで観光客が分断され、輝きが曇っていました。そこでそれらを取つて座れるようにし、観光客に「素晴らしい川の実感」を提供しようと思いました。

五十嵐 きちんと一つ一つ繋がっていますね。私も含めて全体的に理解が足りなかった。

商工会の仕事で悩んでいることはありませんか？

五十嵐 かつこよく言えば会員さんとにかく信頼してもらえらる商工会になるかということです。温海の場合は会員の組織率が非常に悪く、会員の増加を目指しています。仕事は、街づくり、村づくりという部分まで突っ込んだ業務はできていないのですが、経理の指導、税の相談、融資の相談が主で、本当の会員のニーズを把握してないというか、会員にお応えできていない部分があります。

## 温海がダイスキな英国人から

ジョージ・アンドリュースさん

1936年 英国プリストル生まれ  
インディアナ大学で工学、プリ  
ストル大学で哲学を学んだ。東  
京学芸大学などで経済学、イギ  
リス文学を教え約10年前から  
夏だけ鼠ヶ関マリナーでヨット、  
クルージングを楽しむ。自宅は  
三浦半島、葉山。



温海温泉は大好きな場所で、時々芸術的に設計されたうなぎ専門店に夕食を食べに出かけます。春の桜はとも美しく、街の中心を流れ温海川を覆うように咲く様子は、花の滝のようで魅力的です。恋人たちがライトアップされた桜の木の下を散歩するロマンティックなイメージに惹かれ、歩道を歩いてみたところ、実は、歩くスペースがなく木が歩道の真ん中に植えてあって機能的ではありませんでした。恋人たちが手をつなぎ桜並木を歩けなくても、仲良く足湯には入れます。小さな源泉から沢山のホテルにお湯が運ばれ、絶えず溢れんばかりに浴槽を満たしていることはミラクルです。戸沢・湯の瀬旅館のように経済的にお湯を利用して、同じようなプールがあつみ温泉にもできれば、老人の健康福祉や若い方々のスポーツクラブとして、「温泉」という素晴らしい資源が市民の健康に役立つ温泉地になる気がします。

堀教授 お店で大事なことは「儲ける」ってことではないですか？儲けた後に税などの問題が出てくるのであって、儲からなければ店自体をやめてしまふ。経営管理だけやつていても商工会の会員が豊かにならない。大切な事は儲かる為に一軒一軒のお店にどんなことをアドバイスしたらいいのか、あるいは全体でやらなければいけない事は何か、常に思いを馳せ、儲けにつながることを実行していくこと、それが商工会の一番の仕事ではないか、と思えますがいかがですか？

五十嵐 まったく、その通りです。今年三月に商工会連合会で「アクションプラン2011」という事業を提案して、儲かる企業を育てていこうと、ニーズを掘り起こして進めています。指導員と一緒に専門的な指導をしていこう、と四月にスタートしました。

儲かる店は、どうやったら作れると思えますか？

五十嵐 私どもは笛や太鼓をたたいて、実際に踊るのは店をやる人です。チット・モッシュが出来て若い人たちが街に出るようになったことは皆が認めておりますので、もっと回遊してもらって、楽しいお店を作るのは地元の商店の仕事だと思います。



## 堀先生・応援団長の応援歌!

本間儀左衛門さん  
あつみ観光協会会長

葉月橋通りに「あんべ湯」が完成し朝市時間以外のお客さまが動いた。真冬でも人が来る。「もっしえ湯」「もつけ湯」も同じだった。知識、資金を超えた人が来る形を作る「知恵」が問われる仕事を堀先生が見事に成された。“屋根がない、トイレがない”。確かにない。しかし、雨降りにお客さまは外に出ない。「晴れた日に開放感溢れる足湯で満塁ホームランを打つ!」観光の真理だと思う。ずいぶん屋根付き足湯を見て廻った。屋根はあったがお客さまはいなかった。街づくりは足湯を作ることが目的ではない。心配無用!一緒に先へ進もう。



堀教授 「気持ちよく踊ってもらおう」というのはわかるんですが、その前にきちんと踊りを教えて、こういう商品展開にすれば売れますよ、と踊りの型を教えなければ絶対上手くならない。  
店の魅力の一つは、商品そのもの。安いとか、品揃えが豊富だとか、いいものが置いてあるとかです。もう一つは、お店の雰囲気、これがとても大事です。昔のJRの駅は、キヨスクだけで新聞などが手に取り易く、素早く買えるような機能だけ。それでは売り上げが限界だったので、エキキュートとかアトレとか若い女の子が魅力を感じるいい雰囲気の施設を作り、爆発的に売り上げを伸ばしました。チット・モツシエも同じです。商品はしな織であり、一霎焼であり、他にも置いてあるものです。それにも関わらず、一極集中的にチットモツシエに人が集まり、それらが売れていく。それはチットモツシエの雰囲気がいからです。ですから、商工会さんをお願いしたいのは「東京の青山、表参道に負けない雰囲気だね!」と言われるくらい見違えるような店を二つでも、三つでも作って、温海の人達に「あつ、なるほど! ああいう風にやればいいのか。ああやれば儲かるんだ、



温海地区まちづくりアドバイザー 堀 繁さん

昭和27年東京都生まれ  
東京大学を卒業後、環境庁に入庁。その後東工大助教授を経て、現職の東京大学アジア生物資源環境研究センター教授。山形県景観アドバイザー。専門は景観デザイン。

温海町商工会事務局長 五十嵐正直さん

昭和23年生まれ 温海地区木野俣  
旧温海町役場農林水産課長を56歳で退職後、非常勤として道の駅「あつみ」にて産直旬菜市をアドバイスした。農業畑の経験が長いが平成17年より現職に至る。

プロフィール

な!」と手本を見せて欲しい。

五十嵐 はい。

五十嵐事務局長の奥様が、空き店舗を利用した水餃子店を出しましたが。

五十嵐 ええ、少し練習しながらやってみようと思つて...。頭の中では分かつていても具体的なことになると手が出ない。

お店に何かアドバイスは必要ないですか?

五十嵐 とりあえずやってみようという段階でしたから...。

堀教授 三年前に私の研究室で、温海の何軒かを対象に店舗の改造計画を商工会さんへ出しました。でも、何も反応がない。こうしましたという報告もない。お礼の言葉ひとつない笑。事務局長が奥さんと一緒にお店を始めたというのは、商工会の今後あるべき姿を局長自らが実践することですから、私は評価します。その店は成功しなきゃいけない。成功のためにやることは、皆が入ってみたいと思ってお店の雰囲気づくりと、皆が買ってもらいたいと思う商品展開です。

商工会と観光の関係は?

堀教授 あんべ湯や、もつけ湯を作つてお客さまが行きたい、と思つような温泉地を作ることが観光の仕事で、来たお客さまがお金を使いたくなる店を作るのが商工会、



## 住民みんなで取り組みましょう!

佐々木 仁子さん  
昭和9年生まれ 湯温海  
あつみあねちやの会中  
心人物。平成11年より  
「湯のまち人形めぐり」な  
どの活動を行い、あつみ  
温泉の魅力づくりに取り  
組む。



足湯や川の腰掛が  
できて、楽しんでい  
るお客様を見かけま  
す。私も色々なところ  
に出かけますが、地元  
の人とのふれあいが  
楽しみのひとつです。  
街の整備とともに観  
光地としての意識、  
お客様が来るからこ  
こで生活できるとい  
う住民の気持ちが必要だと感じます。観光はみんなの問題という気持ちであつみ温泉が楽しくなるお手伝いをしたいと思います。

堀教授 同じことはできないが温海で何ができるか：  
堀教授 そうです。ただの観光旅行にしないためには、あつみに応用できる形に整理していくことです。

「西の由布院、東の温海」と堀先生が話されていますね。

堀教授 他で学んだことを温海の財産にするためには、「素晴らしい！」の次に「何をやったのか。なぜ、そうしたのか。」まで、突き詰めて学んでいただきたい。  
五十嵐 同じことはできないが温海で何ができるか：  
堀教授 そうですね。自分のやるべき事についても考えていなかったというか。先日、小布施にいったら来たのですが、なかなか素晴らしいです。  
堀教授 他で学んだことを温海の財産にするためには、「素晴らしい！」の次に「何をやったのか。なぜ、そうしたのか。」まで、突き詰めて学んでいただきたい。

## 温泉街全体が良くなるように!

佐藤 菊子さん  
昭和9年生まれ 暮坪  
四代に渡って朝市出店。  
あつみ温泉朝市組合長。  
佐藤与八商店。



温泉街の整備が進んでも、表通りは閑散とし朝市のお客様も昔に比べると遥かに少ないのが現状です。先日、朝市があるから温海に来ていますよ、というお客様が大変励みになりました。くらしのみちゾーン整備と共に、温泉街全体が良くなるよう一緒に朝市を盛り上げたいと思います。

堀教授 由布院との決定的な違いは一人一人の意識の高さです。由布院の方たちはお客様を大事に考え、もてなすということをプロフェッショナルにしっかりと考えたうえでやっています。そういう人をどのぐらい育てるか、究極は人づくりです。「もう堀先生の知恵を借りる必要がなくなつた、自分たちでどんなことができる」というのが理想です。儲かって来ると、必ず店の主人の意識が上がります。儲かって初めてお客様を大事にすることが分かって、ホスピタリティが身に付いて来る。そうして人材が育っていく。私は儲けることが人づくりの道とと思っています。

東の温海になるために何をやったらいいですか？

堀教授 全国レベルで通用するクオリティの高い店舗や旅館をもっと増やすことです。それには、モデル店舗を決めて、商工会がプロジェクトチームを作って店を良くして行く。効果的なのはあんべ湯の周りです。あんべ湯の周りにオープンカフェがいくつか出来て、足湯に入っている人もいれば、それを見ながらコーヒーやビールを飲んでいるという状況を作ってほしい。儲かるようになりませんか。儲かれば意識も変わるし他の人も欲が出て来る。ずつと言っているのに、何故動かないのか、不思議です。

最後に温海の皆さんにメッセージをお願いします。

## お客さまにメッセージを!

本間しんべいさん  
昭和32年生まれ  
山五十川  
鶴岡市議会議員



4月25日、堀教授のまちづくり講演会に参加しました。「人」を大事にする道づくり、というヨーロッパの道作りが観光地には、ぴったり合っていると思います。これまでの日本の道作りは効率主義で「人」を大事にしたものではありません。あつみ温泉の活性化のためにはくらしのみちゾーンを進めながらも、いかに楽しい温泉街にしていけるか、魅力づくりが鍵です。沿道に花や看板やベンチなど、もてなしの空間を演出し、また来てみたいと思っただけのような「あつみ温泉のファン」を内外に増やしていって欲しいものです。応援しています。

堀教授 話し合いも結構ですが、いい店を作って儲かる実例をみんなに見せた方が早いですよ!

堀教授 温海はとてもいいところです。しかし、いいところなんだ、という自信と自覚を持って磨かないと、誰もいいと思わない。私一人ではいくら磨けないのでみんなで温海を磨き直しましょう。それには、自分の家、お店を毎日見直すことです。来訪者にとって不愉快な状況になっていないか。玄関前の花を増やすとか、石畳に水を打つとか、暖簾を綺麗なものに替えるとか、少しずついいからそういう作業をして欲しい。それがお客様に対するホスピタリティのメッセージです。  
五十嵐 住んでる人が地元をこんな街はイヤだ! などと思う様では、観光客にいいところを話せるわけでもない。住んでる人にも魅力ある街にしていかなければならない。商工会としてやるべきこと、やらなければいけないことを、今日は勉強させてもらいました。地元の意識を盛り上げ、儲かる店を作るにはどうしたらいいか、力を入れて話し合いから始めたいと思います。



## 彼らがあつみを愛する理由

わけ

温海は海岸を国道7号線、山間を345号が通り四本の清流が日本海へ注ぎ込んでいます。この川に沿った道がサイクリングに最適です。適度な勾配が脚を鍛えるにはもって来いですし、下りは漕がなくても快適なスピードで風を切って走れます。温海に出掛けたら、自転車は必需品。鼠ヶ関から平沢を経て関川から越沢に抜けると、戊辰戦争の碑が目に入り歴史が偲ばれます。米が美味しいとの看板も目に付きます。路肩に駐車された車は山菜かきのこ探りだなど分かります。五十川沿いの下りはペダルを踏む必要はありません。五十川で「玉杉」の巨大さとその樹齢に驚き、「歌舞伎」「山戸能」を伝承して来た文化に感心しながら海にたどり着く頃に上手くいけばサンセット。夕陽が立岩を紅く照らせば、粟島もくつきり。

食べ物は何となく「温海かぶ」「岩牡蠣」「山菜」「新鮮な魚」「そば」「岩のり」、お米もお酒も美味しく自然からの恵みが贅沢で羨ましいです。

わたしは温海の人への屈託の無い笑顔に惹き付けられます。町時代のHPを通して知り合いも出て、メールとか掲示板を通じて新しい交友関係ができました。温海で、いきなり「それがのう」と話しかければ、笑顔で返すしか術がありません。鶴岡市として合併しても「温海色」は不滅！当たり前ですか？

今回で久我さんの連載はおしまいです。ありがとうございました。



キャップをかぶっているのが久我さんです

### 久我一午さん Kazuma Kuga

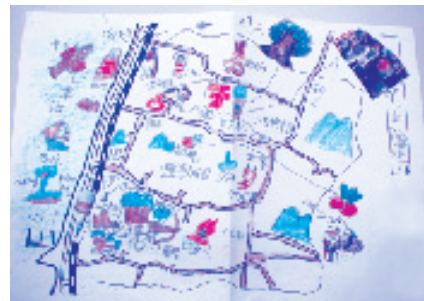
昭和23年山口県生まれ、B型  
鼠ヶ関のサンセットビーチ・トライアスロンへの参加をきっかけに旧温海町HPの掲示板で温海の魅力、自身の愛着を長い間発信してくれた久我さん。その熱い言葉は多くの地元関係者を励まし続け、温海内外のファンを結び付ける存在だ。

## シリーズ 久我一午の温海鼎屋(三)



自分たちは山形県どの辺りに住んでいて、どういう食べ物や文化があるのかを知ろう！というところで、鶴岡市立山戸小学校の3年生(全12名)が自分達で調べに出かけたり、パンフレットなどの資料をもとにしながらいオリジナルのマップを作成しました。はじめは地図の見方も自分たちが温海どの辺りに住んでいるのかも知らなかった子供たちが、マップ作りをきっかけに温海は豊かな自然に恵まれ、山菜や岩がき、温海かぶなどのおいしい食べ物がたくさんあるという魅力を知り、地元の能や歌舞伎以外の伝統文化や観光名所を学んだことで他の地域への興味もわいてきました。一生懸命作ったマップにはカラフルなイラストがたくさんあり、楽しく個性あふれる温海マップに仕上がりました。

この子供たちは、地元のお店を訪ね、売っている商品や仕事内容を調べたりもしました。皆さんも、温海にはどんなものがあるのか改めて探してみたいかがですか？今までの知らない新しいものに出会えるかもしれません。



## 小戸小学校が オリジナルマップ作成！



ばらの花色を6種類に選別。子供たちのするどい感性が光る一瞬。



ばら染めした布。こちらでバンダナを作った。

三瀬保育園のすみれ組さくら組18名の園児がバラ染めを行いました。バラの花が保育園に届いた朝は、玄関に入るなり部屋は甘い香水のような匂いでいっぱい。新聞紙を広げると「わあーっ！いい匂いだあ！」と歓声が上がりました。

「チクチクする棘があつて不思議だのう。」  
「おしへの花粉が蜂に似てて、ガクがイチゴさ似てる。」  
「チュウリップより花粉が取りにくい。」  
先生たちは園児の感性の素晴らしさにいつも驚かされます。三瀬保育園では自然活動から豊かな感性を育もう、と今年度は「自然の色」に注目してタンポポ、チュウリップ、バラの花染めにチャレンジ。花を知る幸せ。花を見る幸せ。花に触れる幸せ。香りを楽しむ幸せ。たくさんの方の幸せを味わった体験活動となり、バラ染めのバンダナで盆踊りを踊りました。普段は観賞するだけのバラが園児にとつて親しみのある花になりました。バラを分けてくださったみなさん、植栽管理を行っていた榎本さん、ありがとうございました。

## 6/9 綺麗！素敵！ばら園のバラを 花染め体験 三瀬保育園

# のうのう、観光協会って何してつとごだんけ?

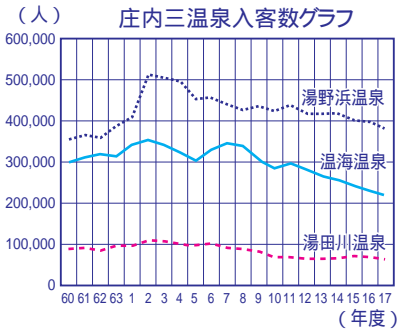
## 「あつみ温泉あい乗り号」 運行開始

電車や高速バス、飛行機を利用しておいで頂くお客様に駅や空港等からお宿まで直行できる予約制相乗りタクシー「あつみ温泉あい乗り号」の運行を温海地域2社のタクシー会社の協力を得て開始しました。



8月10日、JRあつみ温泉駅にてオープンセレモニーを行ない、初めて利用された新潟県の鈴木様へ、花束と庄内メロンの記念品を贈呈しました。  
「あつみ温泉あい乗り号」の詳細につきましては観光協会ホームページをご覧ください。たたくかお電話でお問い合わせ下さい。

## 観光動態がら考える



平成17年度の温海地域の観光動態が発表され、温海温泉の入客数は約22万1千人でした。旅館数の減少など一概に比較はできませんが、平成12年度より6年連続のマイナスとなっています。一方、民宿の利用や摩耶山の登山客などは増えています。レジャーの多様化が進み、お客さまの趣向が多岐に渡っていることが伺えます。

## 清酒摩取心を越沢のお米で!

摩耶山の麓、越沢で作られた酒米でお酒が仕込まれることになりました。越沢の伊藤右一さん、野尻善男さん、五十嵐武さんの三人が今年5月に田植えし、この秋収穫の運びとなりました。年明けの2月ごろには販売される予定です。販売に合わせて発表のイベントなども行なわれる予定です。豊かな水と美しい自然の中で育まれた酒「摩耶山」をぜひお試しください。



## 滝を見よう! 湯見ヶ滝編

温海には4本の川があり、そこにはいくつもの滝があります。湯温海地区と一霞地区の中間に湯見ヶ滝があります。山道を奥に進んでいくと小さな3メートルほどの滝があり、そこから更に奥へ進むと落差約25メートルの湯見ヶ滝が見えます。滝の周辺にはマイナスイオンが溢れ、気分をリフレッシュする効果がありますよ。



## 夢・日本海美人紀行

10月から2ヶ月間JR東日本が中心となり、新潟北部から庄内にかけての送客キャンペーン「夢・日本海 美人紀行」が展開されます。温海温泉では宿泊客へプレゼントが当たるキャンペーンを実施します。

## イベントカレンダー

- 10月9日(祝) 庄内カレーバトル
- 10月14・15日(土) 関川しな織まつり
- 10月15日(日) 鮭と佐渡の見えるみち歩こう大会
- 10月22日(日) 摩耶山秋の登山会
- 10月22日(日) 金山・四の滝紅葉まつり
- 2月4日(日) しやりん寒鯛まつり
- 3月1日(日) あつみ温泉湯のまち人形めぐり

## 編集後記

林業センターに車を止めて怒られたお客様がいたという。共同浴場を水で埋めて怒鳴られたお客様もいた。足湯が熱くて入れなかった、という電話もあった。こういう声を伺うと悲しい。遠くから温泉を楽しむに来たお客様は、もつと、ずつと悲しかったらどう。美人紀行キャンペーンに取り組む温海温泉が美しい表情でありますように。人の心を動かす優しさは、悲しみと同じ心根が生み出すもの。変わりつつある温海温泉のように、この心の中にも『どうぞ』というパンチが必要なのかもしれない。

編集長 本間 真弓  
榎本 五郎治  
五十嵐 由美子  
五十嵐 一彦  
事務局 鳴海 一宏  
榎崎 祐子